

「確率応用力学と信頼性理論の工学への応用」

・M.Shinozuka教授（米国：南カリフォルニア大学）
「確率応用力学における数値解析技法の最近の発達について」

・J.N.Yang教授（米国：カリフォルニア大学、アーバイン校）

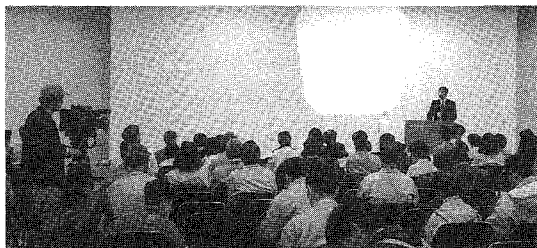
「金属複合材料の確率論的疲労解析」

（武蔵工業大学 工学部土木工学科 丸山 収）

平成7年度「土木の日」コア行事 —みんなで学ぼう震災復興— 開催

平成7年11月19日（日）、神戸国際展示場にて平成7年度「土木の日」コア行事として「みんなで学ぼうしんさい復興」を、防災・復興コンベンション'95の一環として土木の日関連行事関西地区連絡会の共催で開催した。小学生以上を対象に、同年1月17日の兵庫県南部地震による被害の大きさや急ピッチで進められている復興の様子をじかに見て、震災復興について考えてもらおうとの主旨である。当日は快晴で、それぞれ親子連れを含む167名と90名という多数の参加をいただいた。

まず、午前10時からの「確かめよう！復興拝見ウォーク」は、渡邊英一京都大学教授による「構造物はなぜ壊れたの？」と題したオープニングトークで始まった。主に道路橋を中心に被害状況、設計法、安全性などについて、図や写真のスライドをふんだんに使いわかりやすく解説いただいた。引き続きウォークラリーに移ったが、これは地図と被災直後の写真集兼スタンプ台帳を持っ



オープニングトーク風景



賞品贈呈風景

て、徒歩により8カ所の復興現場チェックポイントを、またクルージングにより海からウォーターフロントの復興の様子を見てもらい、被災直後の様子と現状とを比較してもらうものである。時間的にかなりハードなウォークラリーにもかかわらず、参加者は汗だくになりながらほとんどすべてのポイントをまわっていたようである。

その間、午後1時から3時まで同会場で「考えよう！復興トーク&クイズ」を開催した。地震、震災、復興、土木をキーワードにショートトークとクイズ形式で地震災害について考えようというものである。子ども達の素朴な質問に出題者がはっとさせられる場面も多々あり、大変盛り上がった。午後4時にウォークラリー組が同会場に戻り、沖村孝神戸大学教授による「未来の防災都市を目指して」と題した神戸の将来像について、美しいスライドを駆使した大変夢のあるクロージングトークで閉会した。なお、ウォークラリーのスタンプ高得点者ならびにクイズ正解者それぞれの上位者には豪華賞品を贈呈した。

最後に、本行事を開催するにあたり関係機関の皆様にご多大なご協力を賜りました。ここに謝意を表します。

（京都大学講師 工学部土木工学科 吉田 信之）